

令和6年度学校自己評価システムシート

(県立大宮工業高等学校 定時制課程)

目指す学校像	心豊かな人間を育成し、生徒の夢を実現する学校 ～小中学生に楽しさと憧れを！ 在校生に好奇心と自信を！ 卒業生に豊かさと誇りを！
重点目標	1 学習意欲と基礎学力の向上を図る。 2 基本的生活習慣の確立を図る。 3 自己の適性を知り、希望進路を実現する。 4 地域社会に開かれた学校づくりに努める。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	17名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 1 0 日 現 在)		
年 度	目 標	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	【現状】 授業規律が保たれており、生徒が安心して学習する環境が整っている。 【課題】 基礎学力の向上へ向けて、学習に対して苦手意識を克服させ、継続的な家庭学習の習慣を身に付けさせる必要がある。	学習意欲の向上	学校生活アンケートを活用し、生徒の実態に応じた指導方法や活動例を協議する研修会を実施する。	2学期末時点における成績優良者(評定平均4.0以上)の割合が増加したか。(R5年度:28%)	2学期末の成績優良者の割合は33%で、R5年度から5ポイント増加した。	A	生徒の学習意欲の向上のため、ICT環境や授業形態に関する生徒の意識調査を行い、状況を把握する。調査結果を教職員間で共有し、ICTスキル向上のための研修に活用する。
		生徒一人一人の基礎学力の向上	基礎学力向上のための宿題を作成し、長期休業中に取り組みさせることで、家庭学習の習慣化を図る。	夏季休業中および冬季休業中の宿題を作成し、実施したか。	夏季休業中の宿題を実施したが、期待していたほどの効果が得られていないことや、生徒の意見等を踏まえて、冬季休業中の宿題は実施しなかった。	B	生徒が授業の復習や定期考査へ向けて継続的に家庭学習に取り組む意識を向上させるための手法を検討する。
2	【現状】 ルールを守り、何事に対しても真摯に向き合う生徒が多い。一方基本的生活習慣の未確立や自己調整力の不足により、出席状況に不安定さが見られる。 【課題】 生徒一人一人に対する具体的な支援および各家庭や外部機関との連携を充実させる必要がある。	基本的生活習慣の具体的な把握及び確立を図る取組	高校生活支援カードを作成し、生徒支援に関する情報を共有するとともに、具体的な支援に関する方策の検討と、それに基づいた支援を実施する。	・高校生活支援カードを作成し、活用することができたか。 ・2学期末時点における出席状況不振者(遅刻者)の割合が減少したか。(R5年度:10%)	・高校生活支援カードを作成し個別の生徒対応等において活用することができた。 ・2学期末の出席状況不振者の割合は20%で、R5年度から10ポイント増加した。	B	多様な生徒に対応するため、生徒支援に関する活動を推進する。SCや外部機関と連携の下、生徒が自身の状況等を相談しやすい環境を構築し、具体的な支援体制と生徒情報の共有を効果的に行う手段を検討する。
		5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を意識した規範意識の醸成	5S活動を心掛ける取組を行い、生徒および教職員でより充実した環境づくりを推進する。	5S活動について理解し、取り組む意識が醸成されたか。	教職員が率先して教室や実習室での整理・整頓・清掃に取り組み、生徒も高い水準でそれらがよく習慣化され身に付いている。	A	5S活動における教職員及び生徒の意識を向上させるため、学習環境の改善と効率化を目指す。
3	【現状】 自分の適性が正確にわからず、進路の目標を見出せない生徒が多い。 【課題】 生徒の発達段階と適性に応じた進路目標を設定し、実現させる必要がある。また、進路を考える上での十分な情報提供および体験を充実させる必要がある。	発達段階と適性に応じた進路目標の設定	年間を通じて社会人基礎力向上の取組を行う。生徒が自己分析と目標設定を行い、自己理解の促進と目標を意識した行動の推進、進路目標の設定へとつなげる。	・年間を通じて社会人基礎力向上の取組を実施したか。 ・3年次修了時点において、希望する進路が決まっていない生徒の割合が20%未満であったか。	・年間を通じて社会人基礎力向上の取組として「5つの力」を全年次で実施した。 ・3年次修了時点における進路未定者(進学と就職で迷っている生徒を含む)の割合は25%であった。	B	社会人基礎力向上の取組を継続して実施するとともに、自身の特性や目標を発見できない生徒へのアプローチ方法を検討する。3年次修了時点で「卒業後の進路が決まっていない」と回答する生徒割合20%以下を目指す。
		キャリア教育の充実と生徒の進路実現	①職業体験や社会人講話等、社会に触れる機会と自身の進路について考える機会を充実させ、社会人基礎力の向上を図る。 ②進路実現に向けて就職者・進学者へ計画的な補習等の指導を実施する。	①各学期にキャリア教育活動を実施したか。 ②4年次に対して夏季休業中に進路実現に向けた特別講座を実施したか。また、卒業予定者全員の就職先または進学先が決定したか。	・各学期にSST(1年次)、2学期に社会体験活動(2・3年次)、3学期に卒業生座談会(1～3年次)を実施した。 ・夏季休業中に、4年次と3年次の希望者を対象に特別講座を実施した。なお、卒業予定者19名のうち、進路決定者は19名である。	B	各種アンケートや外部機関等から得た情報を活用し、生徒が自分自身と向き合い、進路やその後の生き方について深く考える機会を増やす。 全年次を対象に、進路実現に必要な学力及び学習習慣を段階的に育成するため、補習や学習支援を計画的に実施する。
4	【現状】 情報発信を継続することで、地域との連携が育ちつつある。 【課題】 情報発信を充実させる。また、情報を必要としている人へ確実に情報が届くように工夫する必要がある。	本校の情報を必要とする方々への学校情報の発信	①「今必要な情報を必要な所へ」をテーマに、HPの更新や広報の充実を図る。 ②「生徒のリアルな声を届ける」をテーマに、学校生活や生徒の成長状況を各中学校へ伝える。	①本校HP(定時制日誌)における閲覧数が、年度当初から増加したか。 ②地域や中学校を対象に、本校の具体的な情報を伝えることができたか。	・HP閲覧数の確認をしておらず、閲覧数の増減を知ることができなかった。なお、閲覧数は一日あたり約9回であった。 ・対面形式の学校説明会に加えて、新たに中学校教員対象のオンライン説明会を実施する等、情報発信の機会を増やした。	B	学校の取り組みや教育活動の記録をHPに掲載し、広報活動に活かす。 中学校や受検生へのアプローチ方法について、より効果的な手法を模索する。また、教育活動等の情報発信についても研究を行う。

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 令 和 7 年 3 月 1 2 日
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
<ul style="list-style-type: none"> ・0時限目のリスタート科目に救われた生徒(不登校経験者)は多くいると思う。 ・長期休業中の宿題は生徒に不評である。先生方の負担になってしまうかもしれないが、夏季休業中は宿題よりも補習にしてもらえたら良いと思う。例えば、長期休業前の学期末に基礎学力チェックテストをして、自分の学習レベルが分かれば、補習に参加するきっかけがつけられると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻欠席は本人の意識の問題なので、学校がどんなに指導しても本人が改善しようと思っていないと中々改善できないと思う。 ・生徒は自分からなかなか相談できないので、各クラスの担任がもっと積極的に関わったほうが良いと思う。 ・実習室の整理・整頓・清掃は、授業の中で当たり前のように行っていることで、無意識のうちに習慣化されていると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・外部の方が学校に来て話をしてくれる機会を増やして欲しい。 ・社会体験活動は貴重な経験なので、今後も継続して欲しい。 ・夏季休業中の特別講座では、作文指導が特によかった。数学や国語は専門科目の先生の補習があると、質問しやすくてありがたいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・定時制日誌が前年度に比べて更新されていない。 ・校門に定時制をアピールするものを出しても良いと思う。 ・工業の楽しさを伝えられたら、工業の事を知らない中学生も新たに興味持ってもらえる可能性がある。課題研究発表会の様子を見せたら、4年後のイメージを持ってもらえると思う。